

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2772700767
法人名	医療法人 港南会
事業所名	グループホーム 南風
訪問調査日	平成 21年 6月 22日
評価確定日	平成 21年 7月 29日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772700767
法人名	医療法人 港南会
事業所名	グループホーム 南風
所在地	大阪市大正区鶴町1丁目4番36号 (電話) 06-6555-0161

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年6月22日	評価確定日	平成21年7月29日

## 【情報提供票より】(21年5月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,250 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 310,500 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,365円	

### (4) 利用者の概要(5月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	76 歳	最低	67 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人港南会金城外科脳神経外科・歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大正橋から頻繁に走るバスで16分の場所に位置している。医療法人である母体企業に隣接した鉄骨造り3階建の2~3階が1ユニットのグループホームで開設5年目を迎えている。近くに新たに2ユニットのグループホームとデイサービスが併設され健康体操など合同で行っている。車椅子の利用者が多いなかで身体機能維持や向上に日々リハビリに通院する併設病院は利用者・家族にとって健康面で安心である。地域住民のみんながつくるふれあいの街でゆっくりした時間が流れる支援と一人ひとりがそのひとらしく暮らし続けられる支援に職員一同は明るく地道にとりくんでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域とのつきあい②市町村と連携③同業者との交流を通じた向上④役割、楽しみごと、気晴らしの支援の改善課題は①はふれあい喫茶の利用②市役所、区役所、地域包括センターと相談中味で分けけた連携④はより一人一人の生活歴をいかした楽しみ支援など着実に改善が図られている。③は次年度の継続課題に繰り越された。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関係項目:外部4)</p> <p>所長は事前に自己評価表を明示し、職員・管理者と相談しながら自己評価に取り組んでいる。その中から課題に気づきその対応が検討されている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の開催が定着され、利用者、家族、地域包括支援センター、民生委員、運営者、管理者、職員が参加され、報告事項だけにとどまらず、双方向に議論がされ、民生委員からの進言から地域の福祉会館での「ふれあい喫茶」への参加等改善の取り組みが実践されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>身寄りのない利用者は5人利用されているが、対話ができる家族とは、電話や訪問時をとらえ出来るだけ意見や苦情を聞くようにしている。苦情相談窓口の明示と共に事業所として一般知識人も加わったサービス評価委員会を設置し、定期的に開催され利用者の意見を聴く体制につとめている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常の外出は併設病院へのリハビリが日課となっており、その時に近隣の方がたとの挨拶や会話を大切にしている。町内会で開催される、近くの大きな公園での花見や夏祭などにも積極的に参加している。また秋祭りのお神輿は、ホーム前で止まってもらえ、全員で楽しんでいる。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として5項目の運営方針を理念として併用し、掲示している。事業所独自の「理念」が見られない。	○	運営方針としては確立しているが、利用者、家族、一般の方がたに分りやすくコンパクトにまとめ、全職員と一緒に考えて考えた事業所独自の「理念」をつくりあげてを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議で理念の理解と共有が図られている。日常の言葉かけや態度で理念の実践をおこなっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々、機能訓練に通院する併設病院では近隣の方がたとの挨拶や会話をすることで顔なじみになっている。Tiiki福祉会館で住民が憩う「ふれあい喫茶」の参加は大きな楽しみになっているとともに花見や夏祭りなども積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	所長は事前の一連の評価を説明し、職員や管理者と相談しながらまとめた。その過程のなかで気付いた課題の取り組みもおこなれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催が定着され、報告だけでなく双方向の意見がかわされている。民生委員からの紹介で最近とりくんだ地域福祉会館での住民が憩う「ふれあい喫茶」への参加は利用者にとって大きな楽しみになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には経営などの相談、区役所および地域包括センターには日常の相談や意見を聞くように分けし、日々連携につとめている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「南風」新聞と共に「南風・医療通信」に利用者の暮らしの様子、健康状態のコメントを職員が家族に郵送している。また家族との面会時や電話で健康状態、暮らしの様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所が家族と会話できない5人の利用者には日々寄り添いながら希望や苦情を聴くようつとめている。会話ができる家族とは面会時や手紙そして電話などで極力意見を聞くようにつとめている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退社時は出来るだけ引継ぎに時間をかけられる余裕のある人員配置をこころがけている。離職、異動による利用者へのダメージを防ぐよう職員会議等で話しあっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階別に職員の法人内研修を実行している。外部研修もテーマをきめ参加し、その内容は職員にも開示している。また研修参加者には時間応援や資格取得のサポートも実行している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修のとき知り合った大正区のグループホームと会話や情報交換が出来るようになったが相互訪問などの交流は実施されていない。	○	近くに併設する2ユニットのグループホームとは日常行き来してお互い切磋琢磨しているが、外部のグループホームとも積極的に交流をもち職員の相互訪問などの実施を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時に本人や家族とは十分に会話し、頻繁に事業所への見学を依頼して利用者が馴染めるように配慮している。体験入所も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の言葉使いや態度には特に配慮し、時には個人の過去の経歴から指導してもらったりしてともに支えあいゆっくと過ごしあう時間が流れている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者の訴えを傾聴し本人本位に希望や意向を理解するようつとめている。家族の面会時や職員間の会話も大切にして利用者の思いに対し情報の共有をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケア会議を実施し、事業所での生活状況やADLを確認して、入所当初の介護計画書から、利用者本位の介護計画書を作成している。介護計画書は家族に郵送し同意書に署名、捺印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は3ヵ月に一度見直しをしている。変化が生じた時は、随時見直しを行い計画の変更をしている。また、モニタリングを大切にし、介護経過を把握して、介護計画の見直しに反映されている。計画書は家族に郵送し同意書に署名、捺印されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービスの「医療連携体制加算」「24時間健康管理・医療活用の強化」を実施し、外出・移送・外泊支援など、利用者の希望に柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先して今までのかかりつけ医での受診に対応している。事業所の協力医療機関による受診は月に数回、リハビリは毎日ある。毎月家族に送られる「南風」新聞には、個人の健康面の詳細も記入され、家族も事業所の医療支援に安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に「利用者が重度化した場合における対応に関する指針」を利用者、家族に渡し意見を聞き、「同意書」に捺印してもらっている。重度化や終末期に向けた話し合いは、本人・家族・主治医・職員の全員でやり、方針の共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミーティングで、利用者の誇りやプライバシーを損なわない言葉がけ、対応を話し合い、生活支援に生かされている。個人情報、記録は鍵のかかる場所に保管、取扱いも注意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課を設定しているが、起床時間、食事時間等利用者個々のリズムを優先して対応している。また、行事やレクリエーションの参加も本人の気持を尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成し食材は専門業者に委託している。献立表は献立、材料名、作り方が記入され、事業所で調理されている。利用者の摂り易い調理方法にしたり、好みのものに変更したりして、出来るだけ楽しいものになるように配慮されている。食事介助や見守りが必要な為、職員は一緒に食べられていない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を予定しているが、利用者の希望、生活習慣に合わせている。入浴スケジュールを作成し、一人ひとりのタイミングを知り、希望に添えるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自主的に洗濯物を畳んだり、食事の片付けなど、手伝ってくれる方もある。相撲・野球の観戦や、懐かしい抒情歌を楽しみに、リビングでテレビを楽しまれている。トランプ、ゲームを職員と楽しんだり、新聞の読み聞かせもしている。季節に合わせて、お花見・夏祭りなどの外出をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する連携病院へ、機能訓練に毎日通院している。また、希望にそって、コンビニへの買い物など、外出できるように支援されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員も鍵をかけることの弊害は理解しているが、1階が玄関で、目が行き届かないため施錠している。2～3階のエレベーターは開放されている。外出希望が見られるときは、対処している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火責任者をおき、年2回消防署の協力で避難訓練・避難経路の確認を実施している。避難に地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議で取り上げ、民生委員と話し合っている。備蓄も用意されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表に食事量、水分量を記入、バイタルチェック表と共に、一人ひとりの状態にあった支援がなされている。栄養バランスは、管理栄養士が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木と花と可愛い置物があり和ませしてくれる。2階のリビングは、明るく、季節の切り絵を飾り季節感が感じられ、不快な音や光がないように配慮されている。居室の名札、浴室、トイレの表示も大きく、よく分かるように工夫され、居心地のよい生活が確保されている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの箆笥や飾り物、写真などが持ち込まれている。また、畳がしかれお布団の人もあり、居室にはナースコールがあり、安全で安心して居心地よい生活が工夫されている。		